

事例 1 多様で健全な森林への誘導に向けた面的複層林施業 (東北森林管理局 盛岡森林管理署)



- ・岩手県岩手郡(いわてぐん)
岩手町(いわてまち)
一方井(いっかたい)国有林
- ・モザイク状伐採施業箇所の
全景

林野庁では、戦後、造成された多くの人工林が主伐期を迎える中で、育成単層林の一部について、公益的機能の持続的な発揮に向け、自然条件等を踏まえつつ、育成複層林を始めとする多様で健全な森林への誘導を推進しています。

育成複層林への誘導については、択伐や帯状又は群状の伐採等様々な手法がありますが、国有林野事業では、面的にまとまった森林を管理しているという特性を活かし、小面積の伐採箇所をモザイク状に配置する面的複層林施業も導入してます。

盛岡森林管理署では、その一環として、約 50ha の面的にまとまった人工林（水源涵養タイプ）において、小面積の伐採箇所をモザイク状に配置した上で、それ以外の必要な箇所については保育間伐を実施するという施業を導入しました。伐採後には、一貫作業システムによりカラマツのコンテナ苗を植栽するとともに、伐採前から生育していた広葉樹は、できるだけ残置することとし、多様な樹種からなる森林への誘導を目指しています。

こうした施業の実施に当たっては、計画段階から研究機関（国立研究開発法人森林整備・研究機構森林総合研究所東北支所）や民有林関係者とも連携するとともに、現地検討会を開催しつつ地域の林業関係者への普及にも努めました。

今後とも、植生の状況等に応じた適切な保育を行いつつ、多様で健全な森林づくりに対する地域の理解促進に向けたモデル箇所となるよう本取組の情報発信にも努めていくこととしています。